

【ねがいはしては】

平成30年1月25日
第327号

KYOWA SCHOOL

「コミュニケーション」

ある書籍に載っていたものです。

少々ぞっとする内容なのですが、第2次世界大戦中、精神科医のルネ・スピッツは、孤児院である調査をしました。当時は多くの孤児が生まれましたので、第一に子どもたちには十分な栄養や衛生を与えたそうです。唯一足りないものが、コミュニケーションだったそうです。子どもたちの世話をするスタッフが全く足りず、子どもたちに声をかけたりなど、コミュニケーションがとれなかったそうです。結果、91人いた孤児たちのうち34人が亡くなったそうです。

一般的には誕生したばかりの赤ちゃんに、母は我が子の目を見ながら一生懸命に話しかけます。これと同じように、ご家庭のペットなどにも声をかけていらっしゃるはずです。

通じなくてもいい、しかし常に相手の目を見ながら語りかけること、大切なことであると感じました。

どこへ行っても見かけるスマホを手にする人たち……。その光景は、紛れもなく人の目を見ながらの行為ではありません。そのような行為を少年時代から当たり前として過ごしてきたら、ひょっとすると大人になっても大切な人を前にしながらも、声だけ発すればそれで良いという姿になってしまうかもしれません。

電車の中で赤ちゃんをだっこしながら、スマホに夢中なお母さん。病院へ我が子を連れて行き、順番を待っているときもスマホに夢中になっているお母さん。一家団欒の最中、食事をしながらも家族の目の前で、ラインの返信に勤しむ子どもたち……。食後、テレビを見ながらやっぱり会話の弾まない家族たち……。

今、家族たちから恐ろしいほどのコミュニケーションが奪われているような気がいたします。

心身ともに成長過程にある子どもたちにとって「いのち」に関わるほど大切なコミュニケーションについて、今一度考え直す必要があると思います。

人と人が距離を近くすれば、様々な摩擦が生じる原因にもなります。しかしそれを恐れながら、コミュニケーションをとらないほうが善策だと思ひ込み、ひとりぼつとすると子もいると思います。

赤ちゃん時代に多くの声を、しかも見つめられながら聞いてこられたお子さんと、与えるだけのものを与えるだけで、忙しい忙しいとお子さんの目を見ずに、育てられたお子さん……。

その本の中に書かれている一文です。

「人の脳には、食欲と同じく、関係性の欲求本能も強く備わっています。」

つまりこの関係性の欲求を取り去るということは、子どもから食事を取り上げると同じことになります。

お子さんを育てていらっしゃる方々は、我が子にできるだけのことをしてあげたい……。我が子に与えるものは何でも与えたい……。我が子の欲することは何でもかなえてやりたい……。と、思っているかもしれません。

お子さんが一番欲していることは、「声をかけてもらいたい」「見つめてもらいたい」なのかもしれません。

目の前にあるステーキ、お寿司、焼き肉……。そのどれもが、ひとりで食べるのではきっと美味しいはずがありません。ご両親共々働き、帰りが遅くなり、帰宅したところにはすすすやと寝息を立てている……。なんの不満も言わずに……。いや、不満を言いたかったのだけれど、言えなかったというのが正しいのかもしれません。

久しぶりの休日、家族が全員一つのテーブルに集います。あーでもない、こうでもない……。たわいのない会話が弾みます。全てが許される瞬間です。学校でやってしまったヘマ、会社でやらかした失敗、どれもこれも笑顔がこぼれる瞬間があります。その中には成績のことも含まれるかもしれません。

母と子の2人だけの時の成績の話とはだいぶ雰囲気が違うはずです。「マイッカ」なんて右から左へ即通過、そんなムードが漂う団らんが子には必要です。

ランチ講習（丸1日、のんびりとマイペースで向かう勉強、昼食は栗田がつくります）のとき、食事が終わると好きな飲み物を片手にしながら、部活がどうだの、勉強がどうだの、学校の先生がどうだのと会話が弾みます。私はそんな風景が大好きです。

そしてまた皆、思い思いの勉強に入っていきます。皆、表情は安心しきっています。

競争なし、比べるものなし、強制もなし、宿題もなし、テストもなし、でもそれぞれがなぜか真剣に向かっています。

きっと家庭でも、わいわいがやがやとなさっている家庭では、同じような風景なのかもしれません。

あまりにもご両親が教育に真剣になりすぎてしまうと、子は関係性の欲求を奪われたものと感じてしまうかもしれません。絶食を強要されたような気持ちです。

そうそう、この冬のランチ講習では、クリスマス会のおかしが大量に余ってしまいました。そこで、おやつタイムに出したところ、あっという間になくなってしまいました。どうか、その後の自らの体型に異常が現れたとしても、私を責めないでください。